別記様式6（第9項関係）　　令和　2　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4771400035		
法人名	有限会社ほしくぼ		
事業所名	グループホームほしくぼ		
所在地	沖縄県国頭郡今帰仁村字湧川1578番地3		
自己評価作成日	令和2年	評価結果市町村受理日	令和3年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4771400035-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15　アイワテラス2階
訪問調査日	令和2年　12月　14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は今帰仁村の豊かな自然に囲まれた、のどかな環境にあります。
庭には季節の野菜や花を植え、四季折々のうつろいを感じ、庭で摘んだ花を食卓テーブルの飾り
居心地の良い空間で日々過ごしています。
医療面ではホームの看護師及び同村の診療所と連携し本人や家族が希望した場合ホームでの終末期・看取りの支援を実施しています。
近隣の農家や家族、地域住民が野菜の差し入れがあったり、住み慣れた地域で人生を最後まで生き生きと過ごせるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・当事業所は閑静な自然豊かな環境の中に1ユニット2ヶ所の認知症グループホームと住宅型有料老人ホームが併設している。敷地内はゆったりと広く入居者は、朝食後は園庭を散歩やベンチで日光浴や交流を楽しんでいる。
・管理者と職員は「理念」を念頭に置き、年度毎に4月に今年度の目標を掲げ翌年3月に目標の達成如何を振り返り、日々の業務や支援方法を模索している。
・事業所は就業規則を整備し、諸手当や交通費・研修派遣費・資格取得等、職員健診は年1回夜勤従事者は年2回行い職員の健康維持を図り、年休も年5日から10日希望により取得し　働きやすい環境となる様努めている。
・区民や他の地域からの民謡ショー・クラシックギター・紙芝居・ハモニカ演奏・介護体操音楽会・老人会の慰問等あり、地域に開かれた事業所であるが、3月以降新型コロナウイルス感染症拡大により交流を控え事業所内行事に取り組んでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者の安心と満足」「地域の一員として」「愛と生きがいのある職場」3つを理念に、ホームの目につく場所に掲げ全職員に共有できるようにしている。またミーティング時、面談時に理念の振り返りを行い、理念に沿ったサービスを目指している。	１７年前開設時に掲げた理念を継続している。新年度の４月に理念に沿った目標を職員全員が設定し、入居者の安心安全な生活支援、地域住民の一員としての役割と交流、遣り甲斐のある職場環境であるか等翌年3月に管理者と各職員が目標の達成如何を振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事（豊年祭・展示会など）に参加、保育園児との交流があったが、新型コロナの感染拡大の3月以降は交自体は控えているが野菜・果物などの差し入れがあり、地域の住民とし交流している。	地域自治会に加入し　字の清掃活動道や行事の豊年祭りは準備から片付けまで参加している。幼稚園児とはトウモロコシ刈りを一緒に体験したり老人会の慰問や植樹の贈呈、介護体操の音楽会などを楽しんでいたが　コロナ発生後は、事業所内行事での家族交流や地域住民の差入訪問など自粛した交流を継続している	管理者はグループホームとしての地域交流は多様であるが 「認知症」の理解を地域住民がより深められるよう講話や普及啓発活動に取り組み参加したいと考えており、職員も日常的な地域住民との交流をより広く強く継続したいとの思いがあるため、今後の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の職員が、民生員をし、字が主催するミニデイサービスへ運営・参加し、地元の1人暮らしの高齢者と交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、区長、社協、包括職員、有識者が参加し、事業所の取り組みや事故報告、事例検討などの議題で話し合いをし、その内容を職員で周知し、日々のケアへいかしていた。令和2年3月以降は新型コロナの拡大で、感染防止の為、開催が出来ていない。	運営推進会議は2か月に1回定期的に利用者家族・区長・社協・包括職員・有識者が参加し開催している。コロナ感染防止の為３月以降は職員間で申送り帳などを利用して情報を共有している。平時は行事や経過・事故報告や事故報告書式を広域連合報告と同様な書式に変更した理由・認知症や身体拘束と虐待防止についての学習会・入所者の看取りなどの検討会など多様な内容である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今帰仁村のケアマネ連絡会への参加、ちゅいしいじい事業（小規模法人ネットワーク化事業）などへ参加し、ホームの実情の報告や困難事例の検討などのケアのあり方について学んでいる。管理者は令和2年度今帰仁村の高齢者福祉計画策定委員会の委員となり活動している。	管理者が村のSOSネットワーク事業や今帰仁村高齢者・障害者福祉計画策定委員会に参加し高齢者や障害者が生活しやすい地域づくりに貢献している。又、ケアマネ会議や小規模法人ネットワーク化事業に参加し報告や意見交換をしている。村の担当者とは運営推進会議に参加する際や窓口、電話で報告相談をしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない取り組みと定期的に勉強会で実施している。ホームは日中は玄関の施錠はなく、職員間でｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを取りながら観察し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等の適正化会議は法人に設置され、身体拘束に関するマニュアルを基に定期的に研修し、運営推進会議では資料や宮崎和加子著「認知症の人の歴史を学びませんか」の本なども紹介しながら理解を深めている。車いす使用者の長時間使用を避け椅子やソファーへの移動や、センサーの夜間帯のみ使用について入居者家族や運営推進会議でも共通理解している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員の声かけやケアが不適切ケアになっていないか、虐待になっていないか冊子などを配布し、振り返り考えられるようにしている。	入居者が安心安全笑顔な生活が継続できるよう、高齢者虐待防止マニュアル等を基に定期的に身体的虐待・無視・否定的対応・心理的虐待・必要なケアの放棄等の学習をしている。運営推進会議でも虐待防止法を議題として共通理解を深めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の職員による権利擁護に関する説明を聞き制度の理解と学んでいる。今までの入居者の中にも制度を活用している方がいた、家族との関係性などみながら必要な方には、関係機関と話し合い、活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約前に重要事項説明書を提示、分かりやすい言葉で説明し疑問がないか確認し理解を得たうえで利用契約書に署名・捺印をもらっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にホームでの生活を伝え意見や要望を聞くように努めている。ホームに意見箱を設置している。またホームに苦情を伝えにくい時のために第三者の苦情窓口があることを契約時に説明している。	家族の要望は家では出来なかった体操や歩行練習・食前の口腔体操・踊り・外出やゆったりと穏やかな生活を継続してほしいの要望があり、入居者は買物の代行・畑の野菜の手入れがしたい・コーヒーが飲みたい・仏壇を持ち込みたい等個々の要望がありケアプランに取り込み要望に沿ったケアを継続している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時、毎朝の申し送り、又個人面談時に職員の意見は提案を聞く機会をもち、意見や提案がある場合など随時話し合い業務に反映させている。	月１回のミーティング等で職員の意見や要望を検討し、車いすでの上体保持が困難な入居者にはリクライニング車椅子を購入し対応を改善、軟水器を購入し給湯器や蛇口の故障などの改善を図った。職員の得意分野を尊重しレク活動（踊り・折り紙等）行事企画・調理など業務分担をしている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間・仕事内容の要望は個々により違うため、なるべく要望に沿えるようにしている。またそれぞれの得意分野が活かせるように勤務内容を検討している。	就業規則を整備し、昇給制度や交通費・時間外・休日労働・深夜勤務・台風等の加算手当が規定されている。年休は年10日希望に応じ取得し、職員が本来の介護業務に専念できるよう清掃業務専任の職員を採用している。健康診断は年1回夜勤従事者は年2回行い、ストレスチェックは管理者面談を随時又は年2回行い遣り甲斐や提案・要望を確認し改善点を模索している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、ミーティング時に認知症や権利擁護などの事例をあげ職員に考えさせる機会をもうけている。新人職員へはベテラン職員をつけ対応の仕方や入居者の特徴などを習い業務に活かせるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接するグループホームとの交流し、研修や勉強会を通し同業者の刺激をもらい業務に活かせるようにしている。今帰仁村の連絡会にも加入しネットワーク作り、サービスの質の向上を目指している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する際本人の話しをよく伺い　要望に答え信頼関係が築けるように努める。 積極的に声かけ、笑顔で接し安心して過ごせるように関係作りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人がこれまでどのような生活をしてきたか家族と話し合い、ここでこれからどのような暮らしをしていきたいか等、不安な事要望など　家族の思いを聞き、尊重し信頼関係が作れるよう、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までどのような生活をしていたのか本人家族と話し合い必要に応じては他のサービスもあることも説明しながら本人の希望するサービスが受けられるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、昔の話しを聞いて、知らなかった事を教えてもらったり、料理の調理方法を聞いたりし、「知らなかったありがとう」等返す事で　お互いに支え合う関係がきずけるよう、そのような一場面を多くもてるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活で気づいたことや出来事などを面会時に伝えている。毎日面会来られ、家族の方が食事の介助をする方もおられ、本人と家族のと関り、絆を支援できるように努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や家族に電話をかけたりドライブ等で昔よく行っていた所に出掛けたり、村や字の行事などに参加していたが、新型コロナの感染拡大後は、外へ出る機会は少なくなったが、昔の話を聞いたり、本を通じ「昔はどうでしたか」など思いを馳せれるように支援している。	馴染みの場所や人に関しては、自宅や区公民館に昔の豊年祭りや敬老会等の行事の写真があり、行事の様子や入居者の若い頃の写真を懐かしみ入居者同士が昔話を楽しんでいる。平時は、入居者の家族や地域住民によるフラダンスやハモニカ演奏・ギター演奏等の慰問や差入訪問があり馴染みの関係を継続していたが、コロナ禍の為、自粛しいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士や、逆に意見が合わない入居者の席の調整をしたり、職員が入居者の観察、日頃の生活を見て間に入り支援している。同じ字出身の入居者は、お互い相手がいないと心配し、不安そうにする、顔がみれると「一緒」と笑顔みられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の家族から確認や相談があった場合には、相談に応じたりし関係を断ち切らない取り組みをしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを、直接聞き、思いや意向の把握に努めている。意向を言葉として表現する事が困難な方に関しては、それまでの生活史、習慣、家族の方へ聞き取り等で思い・意向の把握に努めている。	入居者の思いや意向は聞き取りや表出困難な入居者には家族からの情報提供や態度・表情・仕草等で把握に努めている。入居者は「宝くじを購入したい・歩行器から車椅子を使いたい・毎日曜日教会に通いたい・野球のキャンプを見に行きたい・居室に仏壇を置きおつとめをしたい・時々コーヒーが飲みたい」等あり、家族と相談し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から生活歴や馴染みの暮らしの話しを伺う、又本人宅へ伺い自宅の様子、今まで暮らしの状態について把握するように努めている。入所前に関わっていたケアマネージャー他職種と連携し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの過ごし方について、本人の希望や習慣を伺い、出来る事を見極め暮らしの現状の把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよく本人らしく過ごせるように、本人及び家族より意向を伺い、ケアマネージャーと担当職員にてアセスメント・モニタリングを実施し介護計画を作成をしている。本人の要望に応じてケアプランを作成しており、具体的に計画する事で現状に即した介護計画になるように努めている。	サービス担当者会議は利用者家族・担当職員・介護支援専門員が参加し、更新時や医師の診断や状態変化時に見直し作成した。今期は2名看取りがあり対応した。モニタリングは担当職員と介護支援専門員が毎月行い状態変化や入居者家族の新たな要望を確認し、ケアプランに展開しニーズに沿った支援が継続できるよう努め支援項目や支援方法を検討し評価している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1人ひとり個別の記録を実施し、本人の言動、それにどのように対応したか、その結果　良くなった悪くなった等記載し、介護計画に反映できるように、日々の記録と実践に努めている。 又体調の変化など記録し、情報の共有を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型の通所も実施している為、本人の状態などにより通所から入所へ変更、又家族の状況によりGHのショートスティを利用する等、柔軟にその時々の状況に合わせ対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の展示会への参加や、村の健康祭りへの参加、職場体験や地域の看護大学の実習受け入れ等を実施し、地域の方との交流を通し、地域の一員としての暮らしを支援している。新型コロナの感染の拡大後は、実習などはしばらく休止させてもらっている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元の診療所にて、殆どの方が月1回訪問診療をうけている。月1回以外にも必要時には電話等で相談し、時間外にも往診に来てくれ適切な医療が受けられるように支援している。 眼科・歯科・精神科等の受診も家族が付き添いが困難な場合は、職員が対応している。	開設時から、長年地元の診療所として関わりのある医師が定期的な訪問診療や、緊急時の連絡対応にも応じており医療連携に努めている。日頃は看護師資格を有するケアマネジャーが健康状態等を把握し医師との連携を図っている。体調不良や心身の状態に応じて検査等が必要な際には、診療所への診察対応や、他の病院へ紹介を図るなど適切に対応している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師が在中している。 毎日のバイタルサイン測定、体調の変化、入浴時に観察した身体の様子など、情報や小さな気づき等を細目に看護師へ伝え相談している。協働し早めに対応し悪化の予防に努めている。必要時には病院受診など対応し、体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員、関係者、家族とこまめに連絡を取り合い、また本人の状態を観察する為、病院へ行くなどし情報収集し、早期に退院できるように努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取り指針を説明し、重度化した場合の意向を確認している。状態の変化がある場合は、その都度思いを確認しながら、その時々の本人・家族の思いに沿い対応している。看取りを希望する方においては、当ホームで看取りを実施している。看取りに関しては、地域の診療所医師、看護師等と連携し実施している。職員も研修や経験を通し、チームでの看取りに取り組んでいる。	事業所は看取りの指針が整備され、入居時に家族に説明し、同意を得ている。看取り期には医師から家族へ看取りに向けた説明、話し合いを進めながらケア方針の共有を図り支援に取り組んでいる。今年もホームでの看取りを実践しており、見送りの際には入居者が別れの挨拶をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で開催されている、普通救命講習を職員は受講している。入居者の方の急変時の対応などにも情報を共有し対応できるように努めている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動火災通報装置、スプリンクラーを設置している。年2回夜間想定の消防訓練を実施している。区長さんや近隣の住民の方にも、火災通報装置に登録してもらい協力していただき連携を取っている。	事業所は自動火災通報装置を整えており、速やかに避難活動協力員へ通報できる環境を作っている。台風時の停電に備え、非常用発電機も用意している。今年度夜間想定の避難訓練は10月に実施し、次回は3月に予定している。訓練時には地域住民も参加し地域との協力体制を整えている。災害時に必要な備蓄食材品も用意されている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴の場面で、他の入居者に個人の状態が伝わる事がないように留意し、場面ごとに誇りやプライバシーは損なわないような言葉かけ対応に努めている。	運営方針にある利用者の尊厳を重視するよう全職員は、傾聴と受容を基本とする対応に努めている。入浴や排泄ケアは、特に尊厳を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応に取り組んでいる。文字が読めない利用者へ伝わりやすい環境を作ろうと、ネームや絵で表示した、見える、伝わる環境づくりに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の食事や行事（誕生日など）で好きなものや食べたいものを聞いたりコーヒーが飲みたいと本人から希望があれば提供している。昔の話しの中で本人が出来そうな事を聞き出したりやりたいことや思いを聞き作業療法に取り入れたりし支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の散歩時間以外でも外へ行きたいと希望があれば散歩や野菜収穫をしたりし希望に添えるようにしている。トイレや入浴誘導など本人が入りたくないと言われた時は時間をおいて再度声掛けしたり次の日にずらしたり本人ペース・希望に合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に服を選んでもらったり、朝起床時に洗顔や身なりを整え本人ができない場合その都度必要に応じて声掛けしながらその人らしい身だしなみができるように努めている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の収穫、下ごしらえをしてもらい、どういう調理方法が良いか話を聞いたりしている。 3食ホームで職員が作っている。施設の庭には、季節の野菜を植えている為、収穫した食材で調理する事もあり。 食前のあいうべ一体操、食後のお膳ふきなど入居者に役割を持ってもらい毎日おこなっている。	食事は事業所リビングに併設する厨房で職員が調理している。地域住民から旬の野菜や果物など差し入れが日常的にある。食べ残しも少なく、嚥下機能が低下しないよう口腔体操にも取り組み、利用者も共に野菜の下ごしらえを行う機会を作っている。昼食は日頃から職員も一緒に食事を摂っており、利用者との会話を大切にしながら、楽しく食事ができるよう取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録し必要な食事量が取れているか確認、体重測定で、体重の増減を把握する。食欲がない方には栄養補助食を追加するなど栄養摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、口腔内の清潔の支援を行っている。 義歯洗浄、スポンジブラシ、舌ブラシなど個々の口腔状態に応じて適した方法での口腔ケアの支援を行っている		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方にあった排泄チェックを利用し、排泄パターンを把握するようにしている。個々の状態に応じ、それぞれの支援方法を実施。	日中はトイレでの排泄ケアを心がけており、個別に排せつのパターンを把握したチェック表を使い、トイレ誘導を行うことで失禁が減らせることに繋がっている。入所者の多くは布パンツを使用しており、快適に過ごせるよう排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や乳製品を食事に多く取り入れている。天気の悪い日以外は毎日散歩し、レク体操で体を動かし便秘にならないように努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本週3回であるが希望があれば希望に応じ支援している。冬場は湯船も用意し入浴剤を使用し入浴を楽しみにできるように支援している。	個浴でシャワー浴を基本とし、週3回の入浴ケアを実施している。利用者の状態に合わせストレッチャー浴も対応できる環境を整えている。利用者で入浴を嫌がる場合には、事前に散歩をし気分転換を図ったり、時間をずらすなど工夫をし、気持ちよく入浴ケアへ繋げられるよう努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ラジオ体操・リハビリ体操など活動、施設周囲の散歩・日光浴を毎日の習慣にし、日中適度な活動を通し、夜間の安眠につなげるように支援している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の方の分の薬の目的・副作用、用法などファイルで保管し共有し服薬支援に努めている。薬の変更等あれば申し送りし職員へ観察するように伝えている。薬は介護職が投与し、体調の変化があれば管理者や看護師に報告している。	事業所、職員は安全な服薬支援のためマニュアルに沿った支援を行っている。服薬の管理は看護師でもあるケアマネジャーが担当している。処方薬内容の周知、変更時の説明もスムーズに行われている。利用者の顔写真が表記されたお薬入れを作り、誤薬の予防に努めている。本年は誤薬もなく経過しており、服薬支援の手順に沿った基本の徹底に取り組んでいる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝は散歩をしながら菜園をみて季節の野菜、花など自然を感じられるようにしている。散歩、歌、談笑、コーヒータイム、新聞、小説など一人ひとりの楽しみを支援できるように努めている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	朝は散歩をしながら菜園の観察季節の花を見ながらホームの周囲を入居者職員で散歩、天気のいい日は日光浴し談笑している。外出は新型コロナの感染の拡大後は控えているが、つつじ見学や自宅への訪問等を行っていた。	今年はコロナ渦となり戸外への外出は自粛しているものの、日課である毎朝の散歩と日光浴は続けている。事業所は敷地が広く、緑豊かな環境にあり、利用者は菜園や色鮮やかな花をみて楽しいひと時を過ごせている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で買いたいものがある場合は家族に相談し買い物ができるように支援している。本人の希望で金銭を財布で保管している方もいる、所時している事に対する思いを、職員で理解し支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話手紙は自由に使用できるように支援している。電話の希望が多い方に関しても取り次ぎやり取りが出来るように支援している。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のホールのテーブル配置や座る場所は入居者の状況、周りの方との相互関係などで配置。 食卓テーブルの上には、庭で摘んだ季節の花が飾られ、大きな窓からは明るい光と心地良い風が吹き渡る気持ちのいい空間作りを心がけている	事業所は一階平屋の住宅で、壁と床は木調で家庭的な雰囲気となっている。リビング、居室の窓、扉は大きく、屋外がよく見渡せ、出入りがしやすい造りとなっている。玄関先の椅子は、家族の面会を待ったり、くつろぐ場になっている。屋外のテラスは、木製のベンチがあり、ティータイムや日光浴が楽しめる場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にイスやソファーを配置しいつでも自由に過ごせるように工夫している。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本を読むことが好きな利用者の居室には好きな作者の本を置きまたいつでも本が読めるように机を準備している。テレビやラジオなども希望する方には、家族と相談し設置できるように支援。	居室には在宅生活の際に使っていた家具や仏具、テレビ、ラジオ等の持ち込みが自由に設えることができる。壁には家族写真などを飾るなど家庭的な雰囲気づくりに工夫が見られる。希望する利用者には、居室に畳を敷き、その上にベッドを設置する部屋もあり、利用者が快適に過ごせる居室の配慮に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内トイレなどは手すりを取り付け安全に配慮している。各部屋には表札などわかりやすいようにしている。		

（別紙4（2））

事業所名：グループホームほしくぼ

作成日：　令和　3年　4月　19日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	「認知症」について地域住民に理解を深める活動を以前から考えているが、実行に移せていないでいる。	地域の集まりにて「認知症」について普及啓発活動を実施する	管理者が定期的に参加している地域活動の場において普及啓発活動を実施する。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。